

2018年度英国基礎ワークショップに参加して

森田久美子（立正大学・精神保健福祉士）



2018年7月2日（月）から6日（金）までの5日間、英国バーミンガムにおいて開催された基礎ワークショップに参加して参りました。

私はヤングケアラーの支援に関する研究を行っており、ヤングケアラー支援の発祥の地でもある英国で、メリデン版ファミリーワークを学びたいと思い、英国での研修に参加させていただきました。

英国基礎ワークショップでは、精神疾患のある人と家族の持つファミリーワークへのニーズや、ファミリーワークを実施するための基礎技術について、多くのことを学びました。

特に印象に残ったことの一つは、精神疾患のある人のきょうだいの立場にある子どもや若者のニーズや支援にも関心が向けられ、ワークショップのさまざまな場面で取り上げられていたことです。例えば、きょうだいの立場にある人のニーズを考えるセッションがあり、そこでは、きょうだいの立場にある人は、家族の中で精神疾患のある人と最も長く付き合い、人生のさまざまな段階で影響を受ける可能性の高いケアラーであることが強調されていました。

また、日に何度も行われるロールプレイでは、若いきょうだいを含めた家族とファミリーワークを行っていくことを想定した練習が、繰り返し行われました（日本では、家族支援と書いてすぐに思い浮かぶのは、精神疾患のある人と親への支援ではないでしょうか）。

英国での研修は、英会話が得意でない私には、決して楽なものではありませんでしたが、地域精神保健システムのもとファミリーワークを肌で感じながらの学びは、大変貴重な経験となりました。このような機会をいただきましたこと、感謝致します。

この経験をもとに、日本におけるヤングケアラーを含む家族へのファミリーワークの活用について、取り組んでいきたいと思えます。